



緑肥・緑化の部屋 6

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

今回も実践編として、これからの時期に緑肥作物をどのように利用する方法があるのかをご紹介します。

Q 野菜のセンチュウ被害で困っています。キタネグサレセンチュウならネグサレタイジ（えん麦野生種）、サツマイモネコブセンチュウならネコブキラー（クロタラリア）など、センチュウによって効果がある緑肥は様々ですが、ほかにも効果的な新しいものはありますか？

A 最近注目されているものに、「緑肥用からしな」などのシロカラシがあります。この植物は名前の通り、辛味成分を含んでいるのですが、その辛味成分が有害センチュウや細菌、雑草の発生なども抑制することが少しずつ分かってきました。辛味成分である「グルコシノレート」が土壤中で加水分解されることによって「イソチオシアネート」が発生し、これにそうした抑制効果があるというものです。

その活用方法は、「緑肥用からしな」を栽培し、開花期ごろまでに鋤き込むようにします。また、圃場の関係でその場所で栽培できない場合は、ほかの場所で栽培して、刈り取ったものを圃場に持ち込み、

鋤き込んでも構いません。

これらの方法は「生物的燻蒸（バイオ・フェューミゲーション）」といわれ、最近では海外も含めた各地の試験機関でも研究されるようになってきました。

この秋には、注目の「緑肥用からしな」をお試しください。



→ からしなの開花状態



**初期生育が早く、短期間で大きく生育する！
生物燻蒸にもおすすめ！**

(シロカラシ) 緑肥用からしな

播種期：暖地：9～10月（開花3～4月）
3～4月（開花5～6月）
寒地：5～6月（開花7～8月）
8月（開花9月中旬）

播種量：2～3kg/10a